

第2回 既設ダム有効活用アドバイザー会議の開催結果について

会議日時:平成18年3月4日(土)10:00~12:00

会議場所:京都ガーデンパレス(2階・祇園の間)

出席者 :既設ダム有効活用アドバイザー(座長筆頭・以下五十音順)

立命館大学理工学部	中川 教授(座長)
徳島大学工学部	岡部 教授
(独)土木研究所水工研究グループ	柏井 上席研究員
京都大学工学部	角 助教授
神戸大学工学部	道奥 教授
(独)土木研究所水工研究グループ	山口 上席研究員

【議事主旨(指摘事項等)】

1. 既設長安口ダムの治水対策に関する検討について

・オリフィス新設の計画・設計においては、ダム本体ならびに基礎岩盤を対象に、できれば3次元レベルの応力解析を行って、力学的安全性を十分に確認しておくことが望ましい。

・長安口ダムの改造案については、今後とも、改造による治水機能増強などの効果、構造の安全性、施工の容易性、計画の経済性の観点より、総合的な検討を継続してゆくべきである。

2. 既設長安口ダムの堆砂対策に関する検討について

・堆砂対策については、有効かつ経済的な計画の立案に向けて、掘削により追立ダムの貯砂機能を回復させた上で、これも活用した上流河道での貯砂・搬出と貯水池内での掘削・浚渫(短・中期的対策)、および排砂バイパストンネルあるいは排砂ゲートの設置など(長期的対策)の両面から検討を進めることが望ましい。

・とくに貯砂ダムや掘削・浚渫などの検討においては、坂州木頭川からの土砂流入に加えて、現在は土砂の大部分を捕捉している小見野々ダムからも、将来は付加的な土砂流入の可能性があることを考慮する必要がある。

・貯砂ダム等からの搬出土砂や貯水池内での掘削・浚渫土砂をダム下流の那賀川本川河道内あるいは支流域内等に置土して河川に還元する場合には、それらが那賀川下流区間の土砂環境に及ぼす影響を予測し、問題が起こらないよう配慮すべきである。

平成18年3月13日
国土交通省四国地方整備局
那賀川河川事務所

徳島県県土整備部

問合せ先	
国土交通省 四国地方整備局 那賀川河川事務所 電話 (0884)22-6461	
副所長	藤岡 康男 内線(204)
調査課長	鷺津 隆廣 内線(351)
徳島県 県土整備部 河川企画室 電話 (088)621-2636	
技術室長補佐	松野 幸博